

学びの充実のために ～ 日頃の授業づくりのヒントに ～

本年度の学校訪問から、授業づくりのヒントとなる点について紹介します。

No.4 子供の「問い」や「思い・願い」を引き出した学習課題の設定

どのように課題を設定していますか？
一つの方法として

驚きと体験活動をもとに学習の課題をとらえる

◇ 空気てっぽうに水を入れてみると・・・

授業の流れ	児童	教師
T: 昨日は中に空気を入れて実験したね。 C: 玉がすごく飛んだ。びっくりした。 T: 今日は中に水を入れてみましょう。 C: 水だったらもっと玉を押しそうだからきっと飛ばさず。 C: そうかな？ T: ではやってみましょう。 ※ 飛ばずに落ちる。 C: あれっ、どうして？ C: 先生が下手なんだよ。 T: じゃあ、やってみますか？ ※ 飛ばない。 C: すげえ堅い。なんで？ C: 空気のときはちぢまったけど、水だとほとんどちぢまらない。どうして？ C: 水は体積が小さくならないのかな？ T: 確かに水だと飛ばないね。どうしてかな？ Cさんが言ったように、空気とちがって、水は体積が変わらないのかな。では今日は、その理由をみんなで確かめていきましょう。 今日のめあては・・・。	振返 意見 対立 疑問 体験 体感	既習の活用 比較 演示 集約 課題への導き

子供の思考の流れ

教師のコーディネート

めあて とじこめた水は、おされると体積が変わるかどうか調べよう。

驚きや体験活動を通して子供が実感を持った「問い」をもち、それをもとにして本時の学習課題へと導いています。「問い」は学びに向かう際の推進力となる重要な要素です。学習課題の設定は、教師による一方的な提示ではなく、体験などを通して子供の思考に寄り添い、「なぜ」「～かな」という「問い」や、「～したい」という「思い・願い」を引き出して設定することが大切です。

そして、その「問い」や「思い・願い」を集約し、一定方向に導く教師のコーディネートも重要になります。ぜひ、意識して授業づくりに取り組んでください。このことが日々の授業の充実につながります。

防災教育実践協力校としての取組 ～ 荒海小学校・荒海中学校～

今年度、「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」防災教育実践協力校の指定を受けた荒海小学校と荒海中学校が、「小中連携」「地域に根ざす」視点で行った出前授業を紹介します。

【地域の災害史を学ぶ】(小学5年・中学生)

奥会津博物館研究員の渡部康人さんをお招きし、荒海地区、そして南会津全域の災害の歴史や被災者の体験談などについて詳しくお話いただきました。



【南会津と東日本大震災】(小学6年・中学2年)



たじまケーブルテレビの阿部徳子さんより、震災発生時の南会津町内の様子や支援活動、避難者のインタビューなど、実際に取材した映像を見ながら話をいただきました。

【福祉避難所と災害ボランティア】(中学3年)

南会津町社会福祉協議会の方から、避難所生活の実態をお聞きしたり、簡易トイレや簡易担架の作り方を教わったりしました。また、ボランティア活動の内容や心構えについても学ぶことができました。



【南会津の自然災害・町のハザードマップ】

(小学5・6年)



南会津建設事務所や南会津町役場の方から洪水や土砂災害、ハザードマップについてお話をいただきました。模型を使った実験などを通して、防災について深く学ぶことができました。

防災への意識を高めるとともに、「自分の命を守る」ために、考え・判断し・行動できる児童生徒の育成を目指し、地域人材や組織の積極的な活用を図ってください。